

第 15 章 野鳥の観察

校庭や自宅の庭、近くの公園などにやってくる小鳥の姿や鳴き声はわれわれの気分を和らげてくれることが多い。小鳥が好きで飼っている人もいるだろう。探鳥会などに参加した経験のある人もいるかもしれない。近くに日本野鳥の会所属の先生がいるかもしれない。

しかしながら、鳥は古来より身近な存在であるにもかかわらず、我々一般の人間にはその生態が良く知られていないように思われる。鳥かごの中では観られないような生活の存在に、野外の鳥を観察することによって初めて気が付くことが多い。

木の枝を渡る小鳥の観察は初心者には困難なので、水鳥の観察を中心に採り上げた。



ドバトの卵

1. 水鳥の名前をおぼえよう

ねらい

水鳥は比較的動き回らないので、初心者でも落ち着いて観察することができる。ここでは大阪でよくみられる種類について、その形態的特徴と名前をおぼえ、後の観察・調査の基礎とする。

準備

双眼鏡、野鳥図鑑、ノート

方法

1) フィールドを決める。

手軽に何度も足を運べるように、近所のため池、河川、神社や寺の池、公園の池などの内から、比較的鳥の多そうな場所を選びフィールドとする。

2) 双眼鏡の使い方

目標から眼を離さないように意識しつつ双眼鏡を眼の前にもってきて、目標に焦点を合わせ観察する。

3) 鳥の名前調べ

鳥の形態や羽の色をよく観察し、図鑑と照合して名前を記録する。

大阪で見られる主な種類は以下のものである。

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、

ダイサギ、[チュウサギ](#)、[コサギ](#)、[アオサギ](#)、[マガモ](#)、カルガモ、コガモ、

ヨシガモ、[ヒドリガモ](#)、[オナガガモ](#)、ハシビロガモ、[ホシハジロ](#)、[キンクロハジロ](#)、

スズガモ、バン、[ユリカモメ](#)

まとめ

観察日時、鳥の名前と特徴などをカードに記入して、自分たちの鳥類図鑑を作成する。

指導上の留意点

- 1) 危険防止のためにグループで行動する。
- 2) 冬季（11月～2月）に多くの種類を見ることができる。



カモ類の集団



チュウサギとユリカモメ



コサギ



アオサギ



マガモ



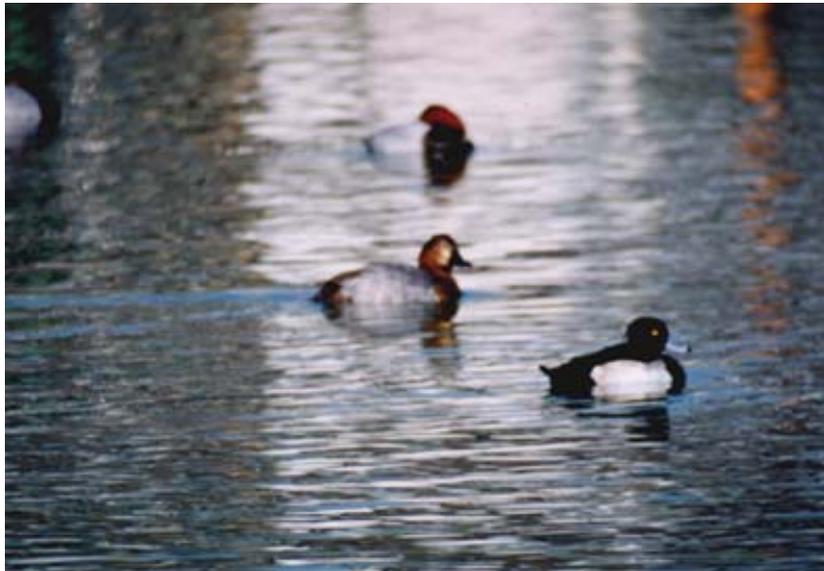
ヒドリガモ



オナガガモ



ホシハジロ



キンクロハジロ



ユリカモメ